

せんぼく探訪 VOL.5

【弥陀三尊(みださんぞん)】 ※先月は、弥陀三尊に関する像を紹介しましたが、今回は板碑を紹介します。

主に浄土系寺院の本堂の正面真中におまつりされている仏さまが阿弥陀如来(仏)、向って右が観音菩薩、左が勢至菩薩である。菩薩とはもともとは仏になるために修行する人のことをいったが、観音菩薩や勢至菩薩の場合は阿弥陀仏の分身として、その働きを助ける者という考えである。阿弥陀さまはなにびとと雖も区別なくお救い下されるが、阿弥陀さまが、慈悲として働かれる時には観音菩薩をつかわし、智慧として働かれる時は勢至菩薩をつかわされるのである。 『浄土宗ホームページ なるほど浄土宗より』

板碑(いたび)

板形の長方形の石の中央に仏像や仏名・種子等を刻し、その下に供養者の縁由及び年月を記し、供養者の氏名を刻したのもの。(佛教語大辞典・東京書籍)

1. 指定名称 弥陀三尊碑 <板碑>(みださんぞんひ)
2. 指定年月日 昭和37年5月30日
3. 所在 田沢湖生保内字久保
4. 高さ 85cm 幅 24~30cm 奥行 33cm

自然石の正面に梵字で阿弥陀如来(キリーク)勢至菩薩(サク)観世音菩薩(サ)の種子が薬研彫られている。下部右面には涅槃経の四句が、左には元徳2年(1330)4月14日と彫られている。自然石をそのまま利用した石塔婆。



阿弥陀三尊碑 板碑

1. 指定名称 板碑(いたび)
2. 指定年月日 昭和56年3月24日
3. 所在 角館町藪田古川
4. 高さ 91.02cm 幅 42.9cm 奥行 26cm

自然石輝石安山岩に梵字で阿弥陀如来(キリーク)勢至菩薩(サク)観世音菩薩(サ)の種子が薬研彫されており、永和4年(1378)3月25日孝子敬白の文字も刻まれている。前述の生保内字久保の弥陀三尊碑<板碑>と内容では同様といえるが、写真でも分かるように隅々や面が整形されている。



板碑

(仙北市教育委員会 文化財課)